

八王子市議会議員 市民・民主クラブ

あ ん ど う 修 三

安藤おさみ



決算議会（第3回定例会）が終わりました！

朝夕には肌寒く感じる季節になってきました。皆様いかがお過ごしでしょうか。さて、八王子市議会では、9月8日から10月14日の会期中、第三回市議会定例会が実施されました。今回の定例会は、通常の議案審議、補正予算審議に加え、平成22年度の決算審査を行う特別委員会が設置され、各分科会（総務企画、厚生、文教経済、都市環境）ごとに決算審査等が行われました。補正予算は、地方交付税等による約5.5億円の増額補正となり、地域包括支援センターの新設や、認定こども園の施設整備などに充当されました。

私は、一般質問で「都市間競争に負けないまちづくり」の観点から、そごうの後継テナント誘致

についての提案、リニア中央新幹線橋本駅建設計画を踏まえての八王子市の取り組みについての提案を行いました。また、自民党新政会の提出した「【子ども子育て新システム】の今年度法案提出の方針の撤回を求める意見書」に対し、会派を代表して子育て支援をより一層推進する立場から、反対討論を行いました。決算審査特別委員会では、厚生委員会の分科会にて、子育て支援充実に向けた施策の要望と、保健所の運営についての提案、疾病予防について、特に通常の健康診断だけでなく、脳ドッグの補助の新設など、高額医療が必要な疾病予防に力を入れるべき、と提案しました。

議会でこんな提案をしました！

① 個性的で若者を集客できるオシャレな駅ビルに！

そごう存続に向け、市民の9万人を超える署名活動や、行政側も取組んできました。しかし、7月に改めてそごう西武側から、閉店の方針を撤回しないとの表明がありました。多くの市民の皆様の思いが結実しなかった事は残念ですが、今は気持ちを切り替え、今よりももっと「魅力的なテナント」を誘致するため、明確なコンセプトをもって行動していくべきだと訴えました。今よりも集客力のある駅ビルにするために、近隣地域に無い、独自性のあるテナントで、世代別統計で消費財の購買性向の高いというデータのでている、20代～40代の若者を集客できるテナントであることが必要だと訴えました。具体的には、アパレルブランドであればまだ多摩地域に出店のない「フォーエバー21」や、「H&M」などのカジュアル系ファッションブランドなどが入れればおもしろいのではないかと。また、物販とアミューズメント施設の複合施設がという形態が、差別化という面でも望ましい。アミューズメント施設であれば、シネマコンプレックスの他に、キッザニアなどが話題性もあり良いのではないかと。また、「八王子コミュニティFMラジオ局」のオープスタジオなどの設置、八王子の農産物、工芸品等の特

紹介するフラッグショップを併設する事等を提案しました。その他にも、今はビアガーデン以外、特に利用されていない屋上の活用方法として、フットサルコートや農業体験のできる緑の広場としての活用などを提案しました。また、百貨店を誘致するのであれば、近隣地域に未だ出店がなく、若者をターゲットとした店づくりが得意な大丸・松坂屋系の百貨店を誘致すべきと提案しました。市側の回答は、今後も後継テナント誘致に向け全力で取り組む。現在、大丸・松坂屋系の百貨店に働きかけを行っている、との答弁がありました。

これに関しては、基本的に駅ビルオーナーとテナントとの民間の契約なので、行政側がどれだけ影響力を持てるか、どの程度関与すべきか、議論の分かれるところです。しかし、市民の皆様にとって、よりよいテナントになるよう努力するのは、行政と議員の義務だと思います。私個人としてもこの件について、駅ビルを運営している、(株)JR東京西駅ビル開発などと接触し、百貨店にこだわり過ぎず、今よりも魅力的な駅ビルになるよう、各方面へ積極的に提案していきます！

② リニア新幹線の経済便益を最大限に取り込め!

リニア中央新幹線とは、2014年に着工、2027年に東京—名古屋間が完工、2045年までに東京—大阪間が完工、2045年までに東京—大阪間が完工する予定となっている、時速約500kmの超高速走行が可能な新しい交通システムです。今年6月7日、その中間駅が、相模原市内に建設される計画が、JRから発表がありました。現在候補地として有力なのは、JR橋本駅周辺のようなようです。八王子としても、以前に中間駅の誘致を求める議論が、議会等でされたことがあります。しかし、**新駅の建設費用は約2000億円**で、JR側は当該自治体に全額その負担を求めていることから、新駅建設に伴う財政負担は相当な額と

事が予想されます。一方、開通50年後の**経済効果は18兆円以上**と言われており、当該地域と周辺地域への経済効果は相当なものが予想されます。八王子市は、橋本地域にほぼ隣接しており、JR横浜線などから直接乗り入れが可能です。地の利を活かし、この便益を積極的に取り込むべく、今から行動すべき、と提案しました。既に、町田市などは、相模原市と新駅建設計画を踏まえて、連携強化することを確認しています。八王子もこの流れに乗り遅れることなく、緊急のインフラ整備に必要な時に使える基金の創設や、相模原市との連携を強化すべきと提言しました。

今後の市政の論点

- ◎**そごう後継テナント**：私自身、今回の一般質問の内容を踏まえて、そごうよりも魅力的なテナント誘致に向け、(株)東京西駅ビル側にと個人的に折衝を行いました。近々、こういった後継テナントになるかについて、おおまかな方向性が示されると思います。現段階では百貨店ではなく、専門店の集積した業態になる可能性が高いようです。独自性の高い、集客力のある駅ビルになるよう、提案を繰り返していきます。
- ◎**次期市長選挙**：来年初旬に次期市長選挙が行われる予定です。現職市長が続投の意向を示すのか、新しい候補者についても、出馬に向けた瀬踏み行為などが活発になってきているようです。市民の皆様もこれまでの市政の総括や、これからの八王子に何が必要か。候補者の人気だけでなく、政策を中心とした選挙になるよう、皆様と一緒に取り組んで行きたいと思っております。次期市長選の、皆様が考える政策の争点、論点など、ご意見をお待ちしております。
- ◎**市議会改革**：10月14日から、議会改革の本丸となる議会基本条例制定に向けた、素案作成の為の委員会が設置されました。私自身、選挙の時の公約の第一項目として、議会改革を訴えてきましたので、志願してその委員に入る事が出来ました。徹底した情報公開、政策立案を中心とした議員のあり方など、他市からもお手本にされるような条例をつくりたいと思っております。皆様の積極的なご提案、お待ちしております。

数字あれこれ

皆さんはこの数字をみてどう思いますか?

今回の定例会では、平成22年度の決算審査が行われました。これから何回かに分けて、決算状況などを概観していきたいと思っております。今回は歳入について。22年度は21年度に比べて依存財源の全体に占める割合が約5%増加しました。主に、国・都支出金(補助金など)や、「その他」の一部にあたる地方交付税などの増額が要因です。自主財源の市税については、平成19年度をピークに、3年連続の減額となりました。自由に使える度合いが高い市税の減額傾向は、深刻に受け止める必要があります。一方、市内の人口は増加傾向にあります。市税収入を高めていく施策が必要です。

平成22年度決算(歳入)

単位:百万円(内)は構成比

区分		決算額
自主財源 (53.8%)	市税	88,698(45.2)
	繰入金	4,401(2.2)
	使用料及び手数料	4,151(2.1)
	その他	8,488(4.3)
依存財源 (46.2%)	国庫支出金	33,141(16.9)
	都支出金	25,839(13.2)
	市債	16,388(8.3)
	その他	15,330(7.8)
【歳入合計】		196,436

八王子市財政白書より作成

<安藤おさみ プロフィール>
1980年4月28日生まれ

【学歴】山田小、第七中、日大三高
日本大学 生物資源学部卒業
早稲田大学大学院 政治経済学術院
公共経営研究科 修了

【職歴】商社営業を経て、(株)船井総合
研究所にて経営コンサルティング職
として勤務

【政治活動】2011年八王子市議会議員


ご意見・ご要望/安藤おさみと語る会(座談会) 随時募

お名前

お電話番号

ご住所

■ご意見・ご要望お寄せ下さい/座談会で語りたくないこと…等

安藤おさみ HP・ブログ  【安藤おさみ】で検索! メール: osamiando55@gmail.com

上記ご記入のうえ、この用紙をFAXください。【FAX】042-649-9777